

思春期版家庭教育支援プログラム促進モデル事業

モデル校 (PTA) レポート1

思春期版家庭教育支援プログラム (H23年度作成) で期待される効果の検証と普及啓発を図るため、H24年度～H25年度の2年間、7校を「思春期版家庭教育支援プログラム」のモデル校 (PTA) として、様々な機会にプログラムを活用した、保護者の学習機会の実践をしていただきました。モデル校 (PTA) の実践の中で、特徴的な取組と得られた効果を紹介しします。

平成24年度モデル校 (PTA)

下野市立南河内中学校

～父親の思春期の子ども理解のために～

- 特徴** 保護者の学習の機会への参加は、母親が中心であるが、多くの父親の参加が期待されるPTA行事で、プログラムを活用した学習機会を提供しました。
- 実施機会** 父親参観日 親子職員球技大会
- テーマ** 「我が子は思春期真っ只中！」
- 成果**
 - 普段はなかなか参加できない、父親の子育てに関する学習機会の提供ができました。
 - 思春期の子どもをもつ父親の戸惑いを共有しました。
 - 父親の子育てへの参加意欲を高められました。
 - 母親同様、父親も子育てについての不安を語る機会を求めていることがわかりました。



栃木県立黒磯高等学校

～実践を重ね、より効果的な活用場面と内容を工夫～

- 特徴** 前年度、プログラムの開発協力校として、既に参加型学習を経験している保護者に対して、段階を踏まえたテーマの設定、他のプログラムとの組合せなどを工夫し、効果的な活用を図りました。
- 実施機会** 2年生「進路説明会」・1年生「進路説明会」
- テーマ** 「我が子の進路とどう向き合っていますか？」
- 成果**
 - 進路講演会で得た情報や疑問点が、学習会につながりました。
 - 参加型学習を経験したことのある保護者は、学習への不安がなく、発言や交流に積極的に関わりました。
 - 1年生の保護者の新たなつながりをつくるためには、高校生活に慣れた時期での実施が効果的だとわかりました。



栃木県立益子特別支援学校

～つながりを求めている保護者の思いを認識～

- 特徴** 特別支援学校において、プログラムを活用した保護者の学習会をはじめ実施しました。特別支援学校で保護者のニーズやプログラムの活用の有効性を探りました。
- 実施機会** PTA役員会・理事会、PTA進路学習会
- テーマ** 「将来の自立に向けて子どものことについて話してみませんか」
- 成果**
 - 保護者が、他学部の保護者とつながる機会となりました。
 - 先輩の保護者との交流が、子どもの進路や将来に対する不安や悩みの軽減につながりました。
 - 保護者同士のつながりをつくることといった保護者のニーズに、プログラムが有効であることが確認できました。
 - 誰もが学習会に参加できるよう、ファシリテーターと校内担当者の事前打ち合わせの重要性を確認しました。



モデル校 (PTA) レポート2

平成25年度モデル校 (PTA)

足利市立山辺中学校

～地域ぐるみで、子どもたちとの関わり方を考える～

- 特徴** 生徒の住む地域で実施する「地域懇談会」において、地域の人々が思春期の子どもたちへの理解を深めるため、また、互いに言葉をかけあえるつながりづくりのため、プログラムを活用しました。
- 実施機会** 地域懇談会
- テーマ** 「子どもと携帯電話 その光と影」
- 成果**
 - 保護者、PTA会員、民生委員・児童委員、子ども会育成会関係者など、地域の幅広い世代で思春期の課題について話し合いました。
 - 現代的な課題をテーマに設定したことにより、大人が学ぶ必要性を確認できました。
 - 学校から情報提供された資料の活用により、地域の学校への理解が深まりました。



栃木県立鹿沼東高等学校

～プログラムの継続した活用のために～

- 特徴** モデル事業終了以降もプログラムを継続して活用するために、教員が助言者 (コメンテーター) としてプログラムの実施に関わりました。
- 実施機会** 2年生「学年懇談会」の後のクラス懇談会
- テーマ** 「我が子の進路とどう向き合っていますか？」
- 成果**
 - クラス担任が保護者同士の会話の中から、学校生活では見せることのない生徒の一面を知ったり、保護者の悩みや不安を知ることによって、生徒のより深い理解につながりました。
 - クラス担任が、保護者の学びに対するメッセージを伝えたことで、保護者と担任との距離が縮まり、学校への理解が深まりました。



栃木県立矢板東高等学校・附属中学校

～保護者の学びも中高一貫～

- 特徴** 中高一貫教育、中高で一つのPTA組織という特性を生かし、中学校と高校が連携して保護者への学習機会を提供しました。また、より和やかな雰囲気の中で保護者の話しあいができるよう、ワークショップの前にランチミーティングを実施しました。
- 実施機会** 学年保護者学習会
- テーマ** 中学：「保護者同士のつながりで、子育て応援」
高校：「我が子の進路とどう向き合っていますか？」
- 成果**
 - 中学校、高校どちらにおいても、保護者のつながりがまだできていない1年生で、保護者を対象に実施したところ、プログラムが保護者同士のコミュニケーションを深める上で有効でした。
 - 中学、高校と生徒の発達段階に応じたテーマを設定しました。
 - ランチミーティングは、保護者の雰囲気作りのための有効な手段でした。



栃木県立のぞろ特別支援学校

～お互いに子育て中のがんばりをたたえる～

- 特徴** それぞれ子育ての背景は違っても、子どもの成長が一番うれしい。そのためについついがんばりすぎてしまう。共通の思いや悩みを共有することで、つながりをつくるプログラムを実施しました。
- 実施機会** 保護者学習会
- テーマ** 中学部：「一緒に考えよう！思春期の子育てや進路の悩み、戸惑い」
小学部：「私の笑顔の秘訣は… (リフレッシュ法教えます！)」
- 成果**
 - 普段言葉を交わすことがなかった保護者同士でも、互いの思いや悩みを語り合うことができました。
 - 保護者同士の交流により参加者の視野を広げ、互いにポジティブに子育てにむかえるよさあえる関係もできました。
 - モデル事業をきっかけに、学校がPTAに働きかけ、保護者が自由に相談やおしゃべりができる学年会を新たにつくりました。

